

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成22年4月8日(2010.4.8)

【公表番号】特表2009-533719(P2009-533719A)

【公表日】平成21年9月17日(2009.9.17)

【年通号数】公開・登録公報2009-037

【出願番号】特願2009-506511(P2009-506511)

【国際特許分類】

G 03 F 7/11 (2006.01)

G 03 F 7/039 (2006.01)

G 03 F 7/004 (2006.01)

G 03 F 7/00 (2006.01)

G 03 F 7/40 (2006.01)

【F I】

G 03 F 7/11 501

G 03 F 7/039

G 03 F 7/004 505

G 03 F 7/00 503

G 03 F 7/40 501

【手続補正書】

【提出日】平成22年2月22日(2010.2.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

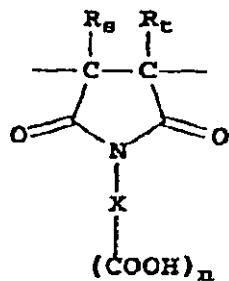
熱画像形成後にアルカリ性現像液により現像可能なポジ型の画像形成可能な要素であつて、赤外線吸収性化合物と基材とを含み、前記基材上に、順に、

第1のポリマーバインダーを含む内層；および

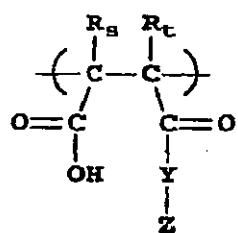
前記第1のポリマーバインダーとは異なる第2のポリマーバインダーを含むインク受容性の外層；

を有し、前記第2のポリマーバインダーは、下記構造(I)または(II)：

【化1】



(I)



(II)

(式中、nは1~3であり、R<sub>s</sub>およびR<sub>t</sub>は独立に水素又はアルキルもしくはハロ基であり、Xは多価連結基であり、Yはオキシまたは-NR-（Rは水素又はアルキルもしくはアリール基である）であり、Zは一価の有機基である）

により表わされる反復単位を含み、当該反復単位は前記第2のポリマーバインダー中の全反復単位の少なくとも3%を構成する、ポジ型の画像形成可能な要素。

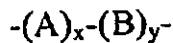
【請求項2】

R<sub>s</sub>およびR<sub>t</sub>が独立に水素またはメチル基であり、Yがオキシであり、Zが-C<sub>6</sub>H<sub>4</sub>CH<sub>2</sub>NHCO(=O)-フェニル基であるかまたは炭素原子数1~8のアルキル基である、請求項1に記載の要素。

【請求項3】

前記第2のポリマーバインダーが下記の構造(III)：

【化2】



(III)

(式中、Aは、構造(I)または(II)のいずれかにより定義されるか、あるいは構造(I)および(II)の両方により定義され、Bは構造(I)および(II)の両方とは異なる反復単位を表わし、xは3~15モル%であり、yは85~97モル%である）

により表わされる、請求項1または2に記載の要素。

【請求項4】

Bが、1または2以上の、(メタ)アクリレート類、(メタ)アクリルアミド類、ビニルエーテル類、ビニルエステル類、ビニルケトン類、オレフィン類、不飽和イミド類、不

飽和酸無水物類、N-ビニルピロリドン、N-ビニルカルバゾール、4-ビニルピリジン、(メタ)アクリロニトリル類、スチレンモノマー類、またはこれらの組み合わせから誘導された反復単位を表す、請求項3に記載の要素。

**【請求項5】**

前記第1のポリマーバインダーが、カルボキシ基を含む(メタ)アクリル樹脂、マレイン酸化ウドロジン、スチレン-無水マレイン酸コポリマー、(メタ)アクリルアミドポリマー、(メタ)アクリロニトリルポリマー、N-置換環状イミドから誘導されたポリマー、ペンドント環状尿素基を有するポリマー、およびN-アルコキシアルキル-メタクリルアミドから誘導されたポリマーである、請求項1~4のいずれか一項に記載の要素。

**【請求項6】**

A) 請求項1~5のいずれか一項に記載のポジ型の画像形成可能な要素を熱的に画像形成することにより、画像形成領域と非画像形成領域を有する画像形成済み要素を形成する工程、

B) 前記画像形成済み要素にアルカリ性現像液を接触させて、前記画像形成領域のみ除去する工程、および

C) 任意選択的に、画像形成され現像された前記要素をベーキングする工程、を含む画像形成方法。

**【手続補正2】**

**【補正対象書類名】**明細書

**【補正対象項目名】**0193

**【補正方法】**変更

**【補正の内容】**

**【0193】**

989 D e v e l o p e r へのコポリマー<sub>2</sub>の溶解性を、30mlの当該現像液中で0.3gのコポリマー<sub>2</sub>を攪拌することにより評価した。コポリマー<sub>2</sub>は、残渣を残さず完全に溶解した。